

キャラクター名 プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハイロウ ブラックドッグ		ワークス	UGNチルドレンB	カヴァー
	オプション		年齢		性別
覚醒	素体	衝動	自傷	初期侵食率	36 %
出自		経験		邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	2	0	0			2	行動値	14
感覚	4	1	1			6	(非装備時)	14
精神	2	0	0			2	戦闘移動	19
社会	0	0	1			1	全力移動	38

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	3		RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	8	
運転:			芸術:			知識:機械工学			情報:UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
レーザーライフル	射撃	6r+3		8		走行無視 シナリオ3回
キーンナイフ	射撃	6r+3		5		装甲-5

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
ムーンドッグ					

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	18	残り財産P:	
--------	----	--------	--

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト	2	2						
効果:	C値-SL							
小さな塵	1	2				射撃		
効果:	攻撃力s1×2							
マズヴィジョン	3	4				オート	100↑	
効果:	攻撃力s1×5 シナリオ3回							
アタックプログラム	1	2				メジャー		
効果:	命中力s1×2							
maxボルテージ	1	4						
効果:	ダイス-1 攻撃力+10							
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

私は昔から機械類がとても大好きだった、機械工学を一所懸命学び、それをほめてくれるおじいちゃんもとても大好きだった、しかしおじいちゃんが死んでから一転、お父さんもお母さんも「機械いじりばかりやってないで勉強しなさい」「女の子らしい趣味を持ちなさい」「才能がなんだったというのよ、みんなと同じことができて、そのうえで才能を語るができるの」と言われ続けた、確かに私は人と関わることが苦手で、なおかつ勉強もできず周りとなじむのがとても苦手カバ-を付けた本を読んで放下中過ごすことも多いのだ。ある日ついに私と両親は大ゲンカしてしまう私は両親のことが嫌になり家を出してしまう

家出した先でレネゲイドウィルスに感染、オーヴァートとなる、2~3日程度で帰るつもりだったのだが、この異能がある限り家に帰っても両親からかんとうさされてしまうだけ・・・どうしよう・・・途方に暮れてるところFHとugnの戦闘に巻き込まれてしまう

私は「ドッグマスター」鷹条映一からとっさに武器を奪い、ugnを撃退、これが彼との出会いだ、彼は戦いが終わったのち私を怒るでもなく銃を取り返すでもなく尋ねた「お前、なぜそれが使える？」と私は知らない、ただ・・・と私の機械工学に対する知識、ババとママとけんかして出て行ったことについてすべて包み隠さず教えた

そしたら彼は「そんな家に帰る必要がどこにある？」とのこと、彼は私をスカウトしたいらしかった、私は私の才能をどんな形であれほめてくれたことがうれしく、彼についていくことに決めた、彼の訓練は苛烈だがやめたいと思ったことも家に帰りたいと思ったこともないの、私は訓練課程を終えムーンドッグの一員と認められた時は天にも昇る喜びだった

鷹条は「自分と自分の部隊をいかに高く買ってもらえるか」が欲望で私は「私の才能をどんな形であれ評価してほしい、高く評価してほしい」が欲望その欲望のためにFHと関係ない、ugnの頼みさえも聞いてしまうが彼もムーンドッグも「おのが欲望のためだ、俺だって同じことをするかもしれん」と黙認している